

研究テーマを考える時の便利ツール 「マインドマップ」

「研究テーマ」は、研究に取り組む時に最も基本となるものです。研究したい、だけど何をどう研究すれば良いのかわからない、という悩みを抱えている方も多いと思います。

本稿では、自分のぼんやりした興味関心を具体化したい、卒業・修了研究のテーマを考えたい時に役立つ「マインドマップ」について、私のやり方を紹介したいと思います。

1. 手元に紙、ペン、付箋を用意しよう

比較的大きいサイズの紙と付箋がおすすめです。

2. 大きな分野、方向性を決めよう

まず、これまで自分がざっくり興味を持った分野を紙（マップ）の真ん中に書きます。文字は大きく！

3. 分野から発想し、関連キーワードを付箋に書いて、マップに貼ってみよう

分野の中で自分が知っている言葉を考えながら付箋に書いて、貼っていきます。

例えば：作家、デジタル、アナログ、日本、海外、戦後、文字、物語、イラスト、起源、読み聞かせ、制作過程、出版状況、和訳、閲覧、子ども、大人、などなど。

4. 以下のキーワードを書いた付箋も用意し貼っていきこう

歴史、現状、推移、変容、プロセス、メカニズム、機能、効果、検証、展望、考察…などなど、自分で追加可。

5. マップを遠くから見て、吟味してみよう

付箋を自由に移動したり貼り直したりしてみよう

ある程度付箋に書いて貼ったら、マップを部屋の壁などに貼付け、2～3メートル離れた距離から見てみましょう。遠くから見ることは、キーワードに対してより客観的になるためのやり方です（スケッチを描く際に、時々遠くから見るというやり方からヒントを得ています）。

6. マインドマップから研究テーマ（タイトル）を作ってみよう

【2. 分野】と合わせて、【3. キーワード】【4. キーワード】から言葉を取って、組み合わせてみましょう。テンプレートとして以下を参考にしてくださいね（もちろんこれだけではありません）。

① ____における____

例：飛び出し絵本における物語性

② ____における____と____の研究

例：アナログ絵本における文字と物語の研究

③ ____の____に関する一考察

例：戦後日本の絵本歴史に関する一考察

☆ ポイント ☆

マインドマップには、自分の興味関心をキーワードとして可視化する機能があります。作成したら壁に貼って勉強や休憩の合間に見ると、言葉が目飛び込み、無意識のうちに考えが形成されることもあります。また、すぐにテーマを決めなくても、マップにキーワードを追加、修正することで、思考の地図が広がっていきます。

先行研究を調べる時にも役立つと思います。夏休みの間、大学や図書館に行くことができなくても、自分のマインドマップを辿れば、キーワードを見つけることができます。附属図書館のデータベース、電子ジャーナル、電子ブックなど検索サービスを活用し、研究のための基礎調査を是非試してみてくださいね！



文責：LIAO（芸術）

